

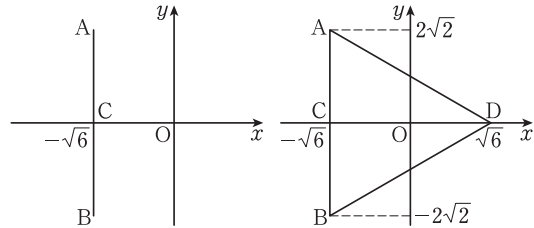
1. a, b, c, d は実数とし, $x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + d$ を $f(x)$ とおく. 4次方程式 $f(x) = 0$ が2つの実数解 $\sqrt{6}, -\sqrt{6}$ および2つの虚数解 α, β を持つとする. 次の問に答えよ.
- (1) 整式 $f(x)$ は $x^2 - 6$ で割り切れることを示せ.
 - (2) $\alpha + \beta, \alpha\beta, c, d$ を a, b を用いて表せ.
 - (3) 複素数平面上において点 $A(\alpha), B(\beta), C(-\sqrt{6})$ が同一直線上にあるとき, a の値を求めよ.
 - (4) (3)において, さらに点 $A(\alpha), B(\beta), D(\sqrt{6})$ が正三角形の3つの頂点となるとき, b の値を求めよ. (23 佐賀大・理工)

2. a, b, c, d は実数とし, $x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + d$ を $f(x)$ とおく. 4次方程式 $f(x) = 0$ が2つの実数解 $\sqrt{6}, -\sqrt{6}$ および2つの虚数解 α, β を持つとする. 次の問に答えよ.

- (1) 整式 $f(x)$ は $x^2 - 6$ で割り切れることを示せ.
- (2) $\alpha + \beta, \alpha\beta, c, d$ を a, b を用いて表せ.
- (3) 複素数平面上において点 $A(\alpha), B(\beta), C(-\sqrt{6})$ が同一直線上にあるとき, a の値を求めよ.
- (4) (3)において, さらに点 $A(\alpha), B(\beta), D(\sqrt{6})$ が正三角形の3つの頂点となるとき, b の値を求めよ. (23 佐賀大・理工)

$f(x) = x^4 + ax^3 + bx^2 - 6ax - (6b + 36)$
 で, $x^2 - 6$ を因子にもつから
 $f(x) = (x^2 - 6)(x^2 + ax + b + 6)$
 $x^2 + ax + b + 6 = 0$ の解が $x = \alpha, \beta$ であるから解と係数の関係を用いて
 $\alpha + \beta = -a$ ③
 $\alpha\beta = b + 6$ ④
 (3) $f(x) = 0$ は実数係数の方程式であるから, $\beta = \bar{\alpha}$ である. A, B, C が同一直線上のとき, α の実部は $-\sqrt{6}$ であるから, ③より

$-a = -2\sqrt{6} \quad \therefore a = 2\sqrt{6}$



▶解答◀ (1) $f(x) = 0$ は $x = \pm\sqrt{6}$ を解にもつから, $(x - \sqrt{6})(x + \sqrt{6}) = x^2 - 6$ で割り切れる.
 (2) $f(x) = 0$ は $x = \pm\sqrt{6}$ を解にもつから, $f(\pm\sqrt{6}) = 0$ である.
 $f(\sqrt{6}) = 6\sqrt{6}a + 6b + \sqrt{6}c + d + 36 = 0$ ①
 $f(-\sqrt{6}) = -6\sqrt{6}a + 6b - \sqrt{6}c + d + 36 = 0$ ②
 ① + ② より $12b + 2d + 72 = 0$
 $d = -6b - 36$
 ① - ② より $12\sqrt{6}a + 2\sqrt{6}c = 0$
 $c = -6a$

(4) $CD = 2\sqrt{6}$ で, $\triangle ACD$ は 30 度定規であるから $AC = BC = 2\sqrt{2}$ となり
 $\alpha = -\sqrt{6} + 2\sqrt{2}i, \beta = -\sqrt{6} - 2\sqrt{2}i$
 とおける. ④より
 $b = \alpha\beta - 6 = 6 + 8 - 6 = 8$